

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104083		
法人名	医療法人 星の里会		
事業所名	グループホームシャンバラ		
所在地	山口県下関市小月茶屋2-8-27		
自己評価作成日	平成29年3月22日	評価結果市町受理日	平成29年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年4月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者1人、1人の個性を大切に自立支援を念頭にどう関わるべきか、職員間で考え、利用者の思いに寄り添えるよう支援している。
 ・3ヶ月に1回シャンバラ便りを作成し、ご家族に配布し、近況が分かるよう工夫している。
 ・医療連携体制による看護師との24時間オンコール体制による緊急時対応が出来る。
 ・利用者の自己決定によるバランスの摂れた昼、夕食メニューの提供。
 ・年間行事を元に、グループホーム独自の会や地域の催し物、行事への参加を行い、気分転換を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部研修は、職員の段階に応じて多くの職員が受講できるように参加の機会を提供され、今年度は8回受講されています。研修受講後は、月1回の職員会議で報告され、資料を全職員に回覧されて、閲覧できるようにして共有しておられます。資格取得の支援もしておられるなど、職員の質の向上に取り組まれています。事業所独自のアセスメントシートを活用しておられる他、日々の関わりのなかでの利用者の言葉や様子を経過記録に記録して利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めておられ、利用前まで利用していた馴染みの理容院の利用や近くのスーパーでの買い物、墓参りや一時帰宅など、家族の協力を得られながら、行きたい場所や馴染みの場所へ出かけられるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	3つの理念それぞれについて話し合い確認、共有し、実践につなげられるようにしている。理念は、事業者内の職員の目に付く場所に掲示している。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。理念について月1回の職員会議時やカンファレンス時の他、日常業務の中でも話し合っている。「一人ひとりに寄り添って穏やかに笑顔で過ごせる」を今年度の目標とし、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており総会や月2回の町内の清掃(草刈など)に利用者と参加している。公民館に利用者の作品(貼り絵など)を展示して見学したり、雛飾りの見学もしている。また、地域の保育園児との交流(七夕作り、夏祭り、敬老会、運動会の総練習など)を楽しんでいる。施設内の行事(開設記念、納涼際、クリスマス会など)にも参加して交流している。	自治会に加入し、職員は総会に出席している。年2回の清掃作業に利用者と職員が一緒に参加している他、利用者と一緒に回覧板を届けている。公民館の文化祭に、利用者の貼り絵の作品を出展したり、雛飾りの見学に利用者と職員が一緒に出かけて、地域の人と交流している。法人施設で開催しているクリスマス会や納涼祭に地域の人の参加があり、交流している。隣接の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者と一緒に、保育園児と七夕飾りづくりや夏祭りや敬老会行事で交流を楽しんでいる他、保育園の運動会の総練習の見学に出かけている。ボランティア(ギター演奏)の来訪があり、地域の人参加もある。福祉専門学校の実習生や中学生の職場体験の受け入れをしている。散歩時や買い物時に地域の人達と挨拶を交わしているなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者とスーパーへ買い物に出掛けたり、回覧板を配布し、地域の住民と会話などしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	毎回、全職員に外部評価の意義など伝え、書類を配布し、記入している。また、外部評価での良い点や課題など、職員会議で話し合い、改善出来るよう共有している。	月1回の職員会議で、管理者は全職員に評価の意義について説明し、外部評価の6ヶ月前に自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、話し合いをして管理者がまとめている。前回の評価結果を受けて、職員間で話し合いをして、緊急時の対応(意識喪失、誤嚥、ノロウィルスなどの感染症)について看護師の指導で実践に取り組んでいるなど、改善に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期開催し、利用者の状況や介護保険課に関する情報、施設での問題点など提供している。地域包括支援センター、推進委員などの意見を他職員へ共有し、サービス向上に努めている。	会議は2ヶ月に1回、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。利用者状況、行事予定や報告、活動状況、グループホームについての説明、外部評価結果等について報告し、話し合いをしている。災害時の事業所の危険性について話し合っている他、見守り等で地域包括支援センターの協力を得られるなど、サービス向上に活かしている。家族の参加はない。	・家族の参加の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課に不明な点など(申請内容、介護保険上の疑問など)相談表や問い合わせにて助言を得ている。また、地域包括支援センター職員とは、運営推進会議での情報交換や直接、地域包括支援センターに出向き、相談など行っている。	市担当者とは、直接出向いたり、FAXで相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築くように取組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に、利用者状況や災害時の事業所の危険性について話し合っているなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を行い、身体拘束について学び、職員間で統一意識の中ケアを行っている(離設の危険があれば、一緒に散歩したり、接遇、マナーの注意の確認など)	事例に基づいて内部研修を実施し、職員は理解をして抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者とは一緒に出かけている。スピーチロックについては、その都度、管理者が指導をしている他、職員間でも話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者についての尊厳を各職員が持つよう指導し、身体介助の統一や言葉遣いに配慮して対応している。入浴時や更衣時など身体の観察をしている。また、外部研修に参加し、職員へ伝達、共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に利用者で後見人制度を利用していた方も居り、成年後見制度についての資料について職員間で共有し、理解を高めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、重要事項説明書やリスク説明など十分に時間を取り、納得して頂けるまで説明している。疑問や不安な点などないかその都度、ご家族に確認している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情についての窓口について入所の契約時説明している。面会時などご家族の意見を連絡帳や職員会議にて共有しケアの統一を図っている。	相談や苦情の受付体制、処理手続きについて、契約時に家族に説明している。面会時や行事参加時、電話等で家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。事業所だよりを家族に手渡し、利用者の日常の様子を伝え、家族からの要望を聞くようにしている。ケアについての要望には、その都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時に職員間で意見交換や月1回の職員会議で事前に提出した議題を元にケアや問題点、不安な点など解決出来るよう話し合っている。	管理者は、申し送り時や月1回の職員会議等で、職員の意見や提案を聴く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員の提案から、勤務体制の見直しをしているなど、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議での意見交換を行い、疑問や不安点など聞き、解決出来るようしている。また、個人、個人に役割を持ってもらい責任感の中でやりがいにつなげられるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、他職員は伝達、共有している。また、資格取得が出来るよう毎年目標計画を作成し、職員に働きかけている。看護師や管理者などが指導者となり、感染予防や緊急時の対応など勉強会を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は月1回の職員会議時に研修報告をしている。資料は回覧して、閲覧できるようにしている。今年度は身体拘束、水害、土砂災害、山口県宅老所・グループホーム協会のブロック研修会等へ8回参加している。内部研修は、年間計画にそって、2ヶ月に1回、管理者や看護師が講師となって、意識喪失、誤嚥、転倒、感染症(ノロウィルス、インフルエンザなど)等を実施している。新人職員は、業務内容に基づいて先輩職員に1ヶ月間指導を受けているなど、働きながら学べるように支援している。資格取得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会に入会しており、協会主催の勉強会に積極的に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかり思いを聞き取れる利用者には、寄り添い、安心して生活できるよう職員間で共有して対応している。また、意思疎通が図れない利用者には、生活歴などを元に職員で話し合い、安心出来る環境、ケアを提供出来るよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	パンフレットなどを用意し、見学時説明や疑問、不安な点など時間をかけ説明している。また、意見箱を設置していることも説明し、投稿出来るようにしている。ご家族の個人情報厳守を職員間で徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の他施設についても説明し、サービスや金銭面も含め説明している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の方針に従い、尊厳を持った対応を心掛け、利用者に寄り添い、信頼関係を築いて行くよう対応している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の生活の様子や健康状態など伝え、ご家族からの要望も聞いている。2ヶ月に1回シャンバラ便りを配布し、季節ごとにどんな行事に参加しているか分かるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、近所の方の面会がある。ご家族の協力の元、外出、外泊、墓参、理美容へ出かけるなどし、馴染みの場所や気分転換出来るよう支援している。	家族の面会や親戚の人、近所の方の来訪がある他、電話の取り次ぎや年賀状を出すなどの支援をしている。馴染みのスーパーでの買い物、家族の協力を得ての外出、外食、外泊、一時帰宅、墓参り、馴染みの理容院の利用など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の思いを聞き、洗濯物畳みやぬり絵、貼り絵など強制はせず、参加して頂いている。また、利用者が孤立しないよう職員が間に入り、利用者同士が話しやすい環境作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会った際や電話などあれば、様子を聞いている。母体の病院へ入院中であれば、声掛けし、困ったや不安などないか相談援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族から聞き取った生活歴を元に行きたい場所など意向の把握に努めている。帰宅願望の強い利用者や気分転換に散歩や近くのスーパーに行ったりしている。また、ご家族の協力を得て外出し、墓参や外泊などしている。台所に入ることでも昔を思いだしてもらい意味でも、おやつ作りなど出来ることは、して頂いている。	事業所の独自のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりのなかでの利用者の言葉や様子、気づきなどをサービス経過記録に書き入れて、思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は、職員間で話し合いをして、本人本位に検討している。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族が面会に来た際、生活歴や性格、馴染みの暮らしを聞き取り、職員間で共有している。利用者からも聞き出せる利用者には、昔の暮らしぶりや趣味など聞き取り、ケアに活かせるよう職員間で話し合い、取り組んでいる。			
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体状態や利用者個々の思いを考慮し、業務優先になることなく、支援出来るよう会議などで話し合い、現状の把握に努めている。			
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に沿った毎月の評価表をチェックし、担当介護職員や看護師と共に話し合いを行い、変化あれば変更をおこなっている。ご家族の要望も取り入れ作成している。また、6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直し、変化などあれば現状に合った介護計画を作成している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回のカンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。利用者の状態や要望に変化があれば、その都度見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など介護計画に記載し、朝、夕の申し送り時に変化などないか職員間で共有している。また、申し送りノートも活用し、二重でチェックし、周知徹底に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員の思いだけでなく、利用者本位を念頭にご家族ともしっかり相談し、柔軟に対応している。ご家族の希望があれば、法人内の施設について説明している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	野外散歩や近隣のスーパーに買い物に行ったり、自治会の掃除に参加した際は、挨拶や会話を交わしている。公民館の行事、理髪店に行くなどして気分転換を図っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院時よりご家族と話し合い、了承の元、協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療と緊急時24時間体制の対応をしている。歯科往診も必要に応じて行っている。その他、皮膚科などの受診の際は、ご家族の協力を得て行っている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の訪問診療があり、看護師が受診情報を伝えている。受診結果は面会時や電話で家族に伝えている。他科受診は家族の協力を得て支援している。職員間では受診結果を連絡帳や健康管理表に記録して共有している。歯科は必要に応じて訪問診療がある。夜間時や緊急時には看護師に連絡し、協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週3日以上勤務し、医療連携体制の元、利用者個人の健康管理表を作成し、個々の利用者の健康状態を把握し、介護職員へ伝達し、共有、業務に活かしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携体制の元、入院など必要となった際、かかりつけ医などの医師、看護師、管理者と連携し、入退院時は、病棟師長と連携し、適切な治療、看護が行えるようにしている。また、ご家族への連絡も怠ることなく行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者より入所時、ご家族に重度化した場合に事業者で出来ることやそうなった場合の指針について説明している。実際に重度化した場合の家族やかかりつけ医、医療機関への移設も含め相談し、共有の元、支援している。	「急性期における医師や医療機関との連携体制」に基づいて事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は早い段階から家族の意向を聞き、主治医や看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて、共有して取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書の事例が発生した場合は、その日や2、3日中には、報告書に状況、対応など記録し、全職員に回覧している。職員会議でも再度検討し、再発防止に努めている。看護師や管理者を指導者にインフルエンザ、ノロウイルス、転倒などのシュミレーションを行い事故防止の訓練に取り組んでいる。	事例が発生した場合はその日の職員間で対応策を話し合い、ヒヤリハット、事故報告書に記録して、朝夕の申し送り時に回覧し、共有している。月1回の職員会議時に再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、2ヶ月に1回、職員会議時や日常業務の中で、看護師の指導の下、緊急時対応、誤嚥、転倒、ノロウイルスなどのシュミレーションを実施しているが、全職員が実戦力を身につけているとはいえない。	・全職員による応急手当や初期対応の訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て年2回(今年も1回)昼夜の火災を想定した合同や定期的な自主訓練(通報、消火、避難訓練)を行っている。また、地震による津波襲来の訓練も合同にて行っている。地域住民の参加は、日程など調整が出来ず参加に至っていない。	法人併設施設合同で消防署の協力を得て、昼夜想定通報、消火訓練、避難誘導等を利用者も参加して実施している他、地震による津波想定避難訓練を実施している。事業所独自で夜間想定避難訓練をしている。緊急時の連絡網に近隣の男性1名の加入があり、見守りの協力を得ているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し、尊重し、尊敬の念を持ち接している。軟膏塗布や更衣、トイレの声掛けや排泄の有無などさりげなく、小声で確認し、プライバシーを損ねない対応をしている。言葉遣いや接遇について管理者などが中心となり、指導している。	職員は日頃から利用者一人ひとりの人格の尊重などについて話し合い、利用者を人生の先輩として誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者が注意している他、職員間でも話し合っている。個人記録などの取り扱いに留意するとともに、守秘義務について理解し、遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が出来る利用者には、本人のやりたいことを聞き、職員も考え、出来るだけ希望に添って利用者のペースに合わせて対応している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いをゆっくり引出し、気持ちに寄り添った対応を心掛け対応している。意思疎通が難しい利用者についても表情など読み取りゆっくりとペースに合わせて対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃から利用者に着る物を選んで頂き、外出時などお洒落着を選んで頂いている。意思疎通の難しい利用者には、ご家族から聞き取り、お洒落着に着替えている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は、昼、夕食選択メニュー(3～10種類程度)より利用者が好みの物を選び提供している。形態は、利用者合わせて対応し、提供している。利用者は、米研ぎ、味噌汁の具材切り、小鉢の盛り付け、台拭きなど出来ることを職員と無理のない範囲で行っている。また、2ヶ月に1回おやつ作りを利用者で行っている。季節の行事食(おせち、クリスマスなど)やご家族と外食の機会を楽しむ支援をしている。	朝食は献立に基づいて、利用者と職員が一緒に調理をしている。御飯と味噌汁は毎食、事業所でつくっている。昼食と夕食の副食は法人からの配食で、選択メニューの中から利用者が好みの物を選び、形状の工夫をして提供している。利用者は米研ぎ、下ごしらえ、台拭き、盛り付けなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで会話をしながら食事をしている。おやつづくり(クリーム白玉、ぜんざいなど)、季節の行事食(節分、クリスマスなど)、事業所としての外食や家族の協力を得ての外食などで、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食べる物が偏らないよう栄養のバランスを考え、利用者に助言し、一緒に考え提供している。毎月の体重測定にて増え過ぎている利用者には、カロリーを考えた食事を提供している。食事時、おやつの際水分摂取量の少ない利用者には、飲みやすいジュースなど提供し、工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、側に付き添い口腔ケアの声掛けやきちんと出来ていない利用者には、尊厳を傷つけないよう配慮し、介助している。 (歯磨き、義歯洗浄、うがい、舌苔の除去) 夕食後は、義歯を外し、義歯洗浄剤に浸け、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表など活用し、1人1人の排泄パターンや習慣を把握し、尊厳のある声掛けにて出来る限りトイレにでの排泄に努めている。また、トイレでの排泄が困難な利用者には、無理をせず、オムツ交換にて対応している。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシー等に気をつけ、言葉かけの工夫や誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者、個々の排泄のサイクルを把握し、トイレでゆっくり排泄出来るような環境作りに配慮している。出来るだけ、薬には頼らず毎週日曜日には、ヨーグルトを提供している。便秘ぎみの利用者には、毎朝飲むヨーグルトを提供している。散歩などの運動や腹部マッサージを適宜行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、週3回13時30分から16時までの間で無理強いせず、本人のペースで若い頃の話をしてしたりして、くつろいで入浴出来るよう支援している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴や足浴、清拭などで対応している。	入浴は毎日、13時30分から16時までの間可能で、隔日で入浴できるように支援している。昔の話をしたり、ゆっくりと入浴できるように支援をしている。入浴をしたくない人には、職員交代や時間の変更、曜日の変更、声かけの工夫などを行っている。利用者の状態に応じて部分浴、手浴、足浴、清拭、シャワー浴など、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操や散歩、なるべく階段を使用し昇り降り、ぬり絵、洗濯物畳みなどを行い、なるべく、薬に頼らないで良眠出来るよう支援している。疲労感など強い利用者には、午後1時間程度、午睡して頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人、1人お薬手帳や薬の説明書を活用し、病歴、服薬情報を把握に努めている。1回分1包化により服薬時、チェックし誤薬がないよう徹底している。看護師が医師、薬剤師と情報交換し状態の変化に対応している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者1人、1人の持っている力量や興味のあることをみつけ、貼り絵、ぬり絵、カルタ、洗濯物量み、掃除(掃く、掃除機掛け)、リネン交換、シャンバラ畑の水やり、収穫、自治会の清掃参加、季節の行事はの参加(節分、納涼祭、クリスマス会、祝賀会など)、近隣の保育園児との交流など気分転換の支援を行っている。	テレビやDVD視聴、本や雑誌を読む、書き初め、歌を歌う、折り紙、切り絵、貼り絵、トランプ、カルタ、オセロ、漢字や計算ドリル、ラジオ体操、リハビリ体操、ズンドコ体操、法人行事、季節の行事(雛祭り、敬老会など)、保育園児との交流、花壇の水やり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツ交換、畑仕事、米研ぎ、下ごしらえ、台拭き、盛り付け、調理、おやつづくり、苗植え、野菜の収穫など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、気候の良い日は、野外散歩やシャンバラ畑の野菜植えや収穫を行っている。また、回覧板を持って行ったり、季節事(花見、菖蒲、みかん狩りなど)ドライブや見て回るなどしている。また、ご家族にも協力を得て、理髪店、外出、外泊、外食など利用者の希望に添った支援を行っている。	週辺の散歩、買い物、季節の花見(桜、菖蒲)、みかん狩り、馴染みの美容院、保育園の運動会総練習の見学、法人行事、初詣、公民館の文化祭などの他、家族の協力を得ての外出、外食、外泊、一時帰宅、墓参り、馴染みの理容院の利用など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かっている預かり金にて、職員と一緒に日用品をスーパーなどに買い物に行ったり、散髪代などに使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話での問い合わせなどあれば、可能な限り、取次対応している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとの貼り絵や折り紙の作品を飾りくつろげるよう配慮している。リビングなど暑過ぎず、寒過ぎず、適度な換気や空調の調節を行い、不快のないようにしている。階段やリビングに季節の花を飾り、季節感漂うよう配慮している。また、リビングより台所の様子が見え、食事の準備やご飯の炊ける匂いなどで生活感を感じれるようにしている。	大きな窓から入る陽ざしでリビングは明るく、季節の花や季節に合わせての折り紙や貼り絵の作品、パッチワークの作品、絵画などを飾っている。本棚には雑誌や本、人形などを置き、大型テレビの前のソファや机、椅子などを配置し、利用者のくつろげる居場所となっている。台所と食堂は利用者が下ごしらえや盛り付けの手伝いがしやすい工夫がしてあり、御飯を炊く匂いなどがして、家庭的な雰囲気となっている。トイレや浴室、洗面台等は使いやすく工夫している。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者1人、1人の希望や長く同じ場所に座りっぱなしにならないよう、職員も配慮し、椅子やソファにて過ごして頂いている。居室で過ごしたい利用者には、事業所のテーブルや椅子を提供し気分転換やくつろげるよう配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その居室に合った家具やベットを備え付けし、居心地のよい工夫している。利用者の馴染みの物(衣類、寝具、写真立て、カレンダーなど)持ち込んで頂き、快適に過ごせるようにしている。	本人や家族の了解を得て、小タンス、ベッドなどを備え付けている。家族や孫、猫の写真、ぬり絵の作品やカレンダーを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者1人、1人の状態に合わせて職員見守りの元、ほうきや掃除機掛け、リネン交換など行い、出来ることはして頂くよう支援している。居室の中の床など歩行に妨げになる物がないか常に確認し、安全に生活出来るよう配慮している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム シャンバラ

作成日：平成 29 年 10 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	地域包括支援センター、推進委員等意見を反映し、サービスの向上へ努めている反面、家族の参加がなく意見を聞けていない。	家族参加への工夫。	家族に面会時等積極的に声を掛ける。事前に参加しやすいように運営推進会議について詳しく説明する。	6ヶ月
2	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備えが各職員同じレベルで出来ていない。	全ての職員が定期的に応急手当や初期対応の継続を行い、実践力を身につける。	勉強会等でシュミレーションを行い実践力を身につける。	6ヶ月
3	36	避難訓練等定期的に開催はしているが地域住民の参加が出来ていない。	地域との協力体制の構築。	地域住民支援者等連携を取り、参加しやすい日程等調整し、参加して頂く。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。